

## 事業年報

### 平成 16 年度 体育研究所所員名簿

所 長 伊藤 孝 体育学部教授 (健康学科/  
体育研究所)

専任所員 伊藤雅充 体育学部講師 (体育学科/  
体育研究所)

荻 浩三 体育学部講師 (体育学科/  
体育研究所)

鈴川一宏 体育学部講師 (健康学科/  
体育研究所)

兼任所員 木村直人 体育学部助教授 (健康学  
科/衛生学・公衆衛生学研究  
室)

具志堅幸司 体育学部助教授 (体育学  
科/運動方法 (体操競技) 研  
究室)

西山哲成 体育学部助教授 (体育学  
科/身体動作学研究室)

野村一路 体育学部助教授 (社会体育  
学科/レクリエーション学  
研究室)

依田充代 体育学部助教授 (短大体育  
科/短大体育科 III 体育科  
専門 1 研究室)

田中信行 体育学部講師 (健康学科/  
社会福祉学研究室)

中里浩一 体育学部講師 (健康学科/  
運動生理学研究室)

林 忠男 体育学部講師 (教養・教職  
科/情報処理研究室)

三宅良輔 体育学部講師 (短大体育  
科/短大体育科 III 専門 3  
(体操) 研究室)

釜崎 太 体育学部任期制助手 (体育  
学科/体育原理研究室)

津山 薫 体育学部任期制助手 (健康  
学科/発育発達研究室)

根本 研 体育学部任期制助手 (体育

学科/運動方法 (バレー  
ボール) 研究室)

畠田好章 体育学部任期制助手 (体育  
学科/運動方法 (体操競技)  
研究室)

綿貫慶徳 体育学部任期制助手 (武道  
学科/大学院スポーツ文  
化・社会科学系)

所 員 宮本英美子 期限付助手  
福井 元 教務補助員

事務職員 永塚聖美 臨時

#### 体育研究所委員会

委員 長 伊藤 孝  
委 員 西條修光 進藤満志夫 西山哲成  
中里浩一 八木沢 誠 西尾末広  
村上 修

#### 体育研究所編集委員会

委員 長 伊藤 孝  
委 員 伊藤雅充 荻 浩三 鈴川一宏

### 第 1 回 体育研究所委員会 議事録

日 時: 平成 16 年 4 月 16 日 (金) 17:30~  
場 所: 体育研究所所長室 (旧男子第 2 寮・1F)  
議 長: 伊藤 孝  
書 記: 宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美  
出席者: 伊藤 孝, 中里浩一, 西山哲成, 村上  
修  
委 任: 西條修光, 八木沢 誠, 西尾末広  
欠 席: 進藤満志夫

#### I. 報告事項

1. 平成 15 年度体育研究所自己点検・自己評  
価について

委員長より, 平成 15 年度体育研究所自己  
点検・自己評価について, 資料 1 に基づき説  
明と報告がなされた。

2. 平成 15 年度体育研究所雑誌第 29 巻 1

号・2号の発刊について

委員長より、平成15年度体育研究所雑誌第29巻1号・2号の発刊について資料2に基づき説明と報告がなされた。

## II. 審議事項

### 1. 平成16年度体育研究所予算について

委員長より、資料3に基づき今年度の体育研究所予算は1,900万円であり、その内訳として所内予算：500万円、研究費：1,400万円とし、研究費の内訳としては、人文科学系：400万円、健康医科学系：500万円、トレーニング科学系：500万円とし研究を進めてさせていただきたい旨提案があった。

審議の結果、原案が承認された。

### 2. 平成16年度体育研究所課題研究について

委員長より、資料4に基づき今年度体育研究所課題研究について、研究分野を人文科学系・トレーニング科学系・健康医科学系の3領域にし、それぞれの分野でさらに4領域に分け、研究を進めさせていただきたい旨提案があった。

これを受けて西山委員より、この資料では二通りの解釈ができる。まず、専任の先生との共同研究、もう1つは、研究室に所属し、体育研究所の兼任所員として、ここにあるテーマと近いものを研究する。どちらでも可能かという指摘がなされた。

これに対し委員長から、報告書の問題があり、自分の研究領域と重なってしまった場合でも報告書を提出していただかないといけない。重なって研究費を使用するのはいいが、体育研究所の研究費を使用して研究するのであれば、研究成果の報告書を提出していただくことになる旨返答された。

さらに西山委員より、共同研究の場合には、こういうテーマで一緒に考えたりすることができるということで、ほとんどの方がどこにでも引っかかるようなテーマで簡単に出席するので、誰でも応募できるように広げているのか、共同研究でこれなら、一緒にできるということで広げているのか。何で every-

body・welcomeだったら、むしろテーマをなくして、テーマを出して応募してもらう方がいいのではないかという指摘がなされた。

これに対し委員長から、自己点検を見ると、先に所員を公募して研究テーマを決めていくということが書いてあるが、せっかく専任の先生方が位置づいたので先に専任の先生方の研究が優先されるような形をとりたい旨返答された。

中里委員より、資料1-2左側にあります、参考：現行関係規程には、「研究条件の整備を図り、本学の諸研究室の研究所利用の要求に伝えていく」という部分では今回の幅広い範囲・テーマでいろいろな人に来てもらうということでは、現行としては合っていると思う。たしかに、重要なテーマ、重要性の度合いでいくと、この4つ挙げられている重要度はもちろん順番がつく。社会的な要請の順番、学術的な要請の順番などいろいろな順番がつくとは思いますが、あえてすべてを出して、そこに引っかかってくる先生方なるべく幅広くひろって現行の規程のような研究所の位置づけとして、そのあと可能であれば、来年度はもう少し絞っていききたいということなら、今年に限って言えばいいと思う。専任の先生が今年度からは主体的に仕事をしていきたいということであれば、そのまま、今年・来年と進めていいのではないかという指摘がなされた。

委員長より、今年度やってみて、いろいろ問題が出てきたら、それを是正しながら、来年、考え直していく旨返答された。

審議の結果、原案が承認された。

### 3. 体育研究所雑誌第30巻の発刊について

委員長より、大和先生の後半の時代から年2回の発刊になり、円田先生も年2回発刊していたが、年2回の発刊は非常に負担が大きすぎるといえることがあるようなので、年1回の発刊にし、もう1号については、欧文での発刊を検討していくということで、今年度の体育研究所雑誌の発刊については、1回にし

たいとの提案があった。

これを受けて西山委員より、日本語で投稿した報告書を英訳して掲載するということがこの指摘がなされた。

これに対し委員長から、まだ、検討していくという段階ですが、同じ論文ではなく、別に欧文の論文を投稿していただき、掲載したい旨返答された。

さらに西山委員より、欧文で雑誌を発刊する意図は、国際的に研究所を宣伝していくということかとの指摘がなされた。

委員長より、体育研究所の存在をきちんとする必要があると返答された。

さらに西山委員より、体育研究所が英訳し、それを欧文雑誌に掲載するというのはどうか。どれくらいのコストがかかるのかは分からないが、それならかなり可能性はあるとの指摘がなされた。

委員長より、和文で投稿した論文を、欧文にして掲載するというのは、無駄なような気がするかと返答された。

西山委員より、雑誌を発刊できる数の投稿があるとは限らないとの指摘がなされた。

委員長より、それについては、検討させていただきたい。何も学内にこだわることはなく、体育研究所の質を高める必要があり、個人の意見ではあるが、大学院とある程度、手を結び進めていきたいと返答された。

これに対し中里委員より、本学の紀要は、大学院生の投稿を可能にしているので、それがいいなら逆にいいと思うが、つい最近、可能にしたので、紀要が不可で、体育研究所雑誌を可能にするなら別。ただ、欧文で投稿するのを受け付けるという形をとり、欧文の論文数が増えてきたら、2号に分けて発刊していくという形でもいいと思う。欧文を奨励するような投稿規程に変更してはどうかという指摘がなされた。

委員長より、本当に独立した研究所という機関ならいいが、ほとんどの先生が兼任所員、あるいは、専任者が位置づいたが、研究

に専念するのではなく、授業をもたされたりいろいろしている中で、その中で、年2回の発刊は、大変負担になっているということもあり、さしあたっては、1号にさせていただくと、逆戻りするような形だが、そういった中で、できれば欧文のことも考えていくということにさせていただきたいと返答された。

さらに中里委員より、年1回の発刊にしても、ほとんどが欧文投稿ということになると印象が違う。多少混ざっていても、半分以上が欧文ということになると、これは、逆に戻ったようなイメージはあまりないが、和文を体育研究所で英訳して出すということに、1つだけ抵抗がすごくあるのは、例えば、そういう形で海外に出したときに、もし著者と話をしたいと連絡を取ってこられて、実際に書いた人と話すとき「いや、英訳は違う人がやったんだ」ということになると誰が解説してくれるのかということになる。たとえ、片言であったとしても、自分でやらないと、もし、そういう形で発刊してしまって本当に注目されて本当に問い合わせがあったときに、答えられる人がいなかったというのは、失礼だと思うので、そういう意味では著者自身が書いた方がいいという指摘がなされた。

委員長より、自己点検・自己評価からすると、年2回発刊していたのに、年1回の発刊にすると後退するような感じがする。実際にそれだけの論文を集める職員の手間からすると、かなりの負担になりすぎているので、年1回にさせていただくということです。欧文の方はまだ、いろいろ問題があるので、検討課題にさせていただきたい旨返答された。

さらに村上委員より、これまでスポーツ界で活躍した日体大関係者を歴史的に挙げてみることや、この間の優れた論文を本人に欧文にさせていただくことなどを兼ねて、日体大を海外に宣伝するというイメージの編集をしてはどうかという指摘がなされた。

これに対し中里委員より、そういう意味で

は、例えば、会社が出しているプレスリリースのような形で進めていく方が効率的だと思う。最近は国立大学でも、ある学部のある学部の教授がいいデータを出したら、学部としてニュースプレスリリースで発表しているところがあるので、日体大でも日体の学内で得られた成果を体育研究所の所員があげてきて、所員の方が全部まとめる形をとって、紹介記事を英語と日本語で研究成果をプレスリリースとして、ホームページに出していけば日体大の紹介になり、注目度は上がるので宣伝にもなるとの指摘がなされた。

委員長より、そのくらい体育研究所という機関で進めている研究を宣伝する必要があると返答された。

さらに中里委員より、ホームページで寄稿をアナウンスするなどしていけば本当に出してもらえるかもしれないという指摘がなされた。

村上委員より、大学の研究所から出る研究誌に現場の指導者は書く機会がないので、研究所雑誌に投稿し、掲載されると海外にも発送されることを知れば、投稿してくる可能性はあるとの指摘がなされた。

中里委員より、いずれにしても、年2回の発刊は大変だと思うので、年1回の発刊にするべきとの指摘がなされた。

委員長より、欧文雑誌のアイデアについては、どのように進めていくかを課題とし、さしあたっては、雑誌は年1回の発刊にさせていただきたい旨返答された。

審議の結果、原案が承認された。

#### 4. 体育研究所雑誌 編集委員の選任について

委員長より、体育研究所雑誌 編集委員の選任について一任いただきたい旨提案があった。

審議の結果、承認された。

#### 5. 学術講演会の開催について

委員長より、新任の先生に講演をお願いしていたので、今年度も講演会の開催は必要と考え、演者については、本学内で積極的に研

究されている先生方や、新任の先生方、また学外の方にも講演していただきたい。学長から各部長・監督・コーチの研修会ということをやっていただけないかと運動部の統括部長から話があったとの報告を受け、研究所でこのような要望に応えた形で仕事をしてもらいたいということでしたので、そのことも含めて年に何回か講演会を開催していきたい旨提案があった。

審議の結果、承認された。

#### 6. 専任所員による役割分担について

委員長より、専任所員および体育研究所の年間事業予定・分担者について資料5に基づき説明があり、年間事業予定については、会議・学術講演会・雑誌編集委員会・体育研究所委員会の開催、雑誌の発刊する旨提案があった。

審議の結果、承認された。

以上

### 第1回 体育研究所所員会議 議事録

日時：平成16年6月21日(月) 17:30～

場所：大会議室奥(深沢校舎・1号館・2F)

議長：伊藤 孝(所長)

書記：宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美

出席：伊藤 孝, 伊藤雅充, 釜崎 太, 木村直人, 鈴川一宏, 田中信行, 津山 薫, 西山哲成, 根本 研, 林 忠男, 綿貫慶徳

委任：具志堅幸司, 中里浩一, 畠田好章, 三宅良輔

欠席：荻 浩三, 野村一路

#### I. 報告事項

##### 1. 日本体育大学研究所規定について

所長より、兼任所員について教授会を経て正式に決定したことが報告され、特に研究の部分で協力願いたいとの申し出がなされた。続けて、資料1として配布された「日本体育大学体育研究所規定」、「体育研究所委員会規定」および「日本体育大学体育研究所管理規定」についての説明があり、これらの規定に則り研究を進めていただきたいと報告がなさ

れた。

## 2. 平成16年度体育研究所所員について

所長より、平成16年度体育研究所を構成する専任所員および兼任所員の紹介がなされた。

## 3. 平成16年度体育研究所研究テーマについて

### 1) 日本における生涯スポーツの振興と展望

研究代表者の荻所員が欠席のため、所長および福井所員より説明がなされ、日本における生涯スポーツの振興と展望に関わる事柄を大きく6つのテーマに分け、荻所員を中心に、野村・依田・田中・釜崎・綿貫・福井各所員が1年ないし2年をかけてそれぞれ研究を進めていくことが報告された。

### 2) 競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究

研究代表者の伊藤所員より説明がなされ、伊藤所員を中心に具志堅・西山・林・根本・畠田・宮本各所員の7名で他の2つの分野のようにテーマを細分化せずに1つのテーマについて研究を進め、内容については、情報戦略に関わることでタレント発掘の情報や体力測定の数値や選手の映像などを、どのように活かしていくのかについて研究を行っていくことが報告された。

### 3) 運動と健康に関する研究について

研究代表者の鈴川所員より説明がなされ、鈴川所員を中心に木村・中里・津山・三宅各所員の5名が学齢期、一般成人、スポーツ選手、中高年を対象とし、運動と健康に関する各々の研究テーマについて個別に研究を進めていくことが報告された。

## 4. 申請書について

永塚所員より、申請書の書式は通常各研究室において使用されているものと相違ないこと、各研究テーマに関わる申請書を提出する場合は直接管財課、庶務課、経理課等に提出するのではなく、永塚所員を通して欲しい

旨、報告がされた。

## 5. 平成16年度体育研究所予算について

所長より、資料5の平成16年度体育研究所予算案（全体）について、既に体育研究所委員会にて承認されていると説明があり、研究テーマごとの研究費については「日本における生涯スポーツの振興と展望」が400万円、「競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究」、「運動と健康に関する研究について」の2つの研究テーマについては500万円ずつの予算配分となっていると報告がなされた。

## 6. 平成16年度第1回学術講演会について

所長より、平成16年度の第1回学術講演会について、講演者は教職教育I研究室の成田先生に依頼し、6月29日に開催されることが報告され、是非ご参集いただきたいとの案内がなされた。さらに所長より、本年度の学術講演会は前期に2回、後期に2回の合計4回行われること、第2回目以降の学術講演会の講演者は入江先生、渡辺先生、落合先生にお願いし、開催される予定であることが報告された。さらに、講演者は本学に最近採用された教員であることが説明され、また人選については既に体育研究所委員会にて承認されていると報告がなされた。

## 7. その他

1) 学長より、学友会運動部の競技力向上のための講演会開催時に、体育研究所が予算面で協力して欲しいという申し出があったことが所長より報告され、また、このような申し出があった場合には体育研究所としては協力をする旨の報告がなされた。

2) 研究テーマの公表について林所員より質問があり、所長より兼任所員の任期は2年間であること、今回割り振られた予算は平成16年度の1年間の予算であること、1年間で研究が完結しない場合には今年度の年度末までに中間報告を、完結した場合には論文形式で提出を願い、最終的には来年度の体育研究所雑誌に論文を投稿していた

だくとの回答があった。

- 3) 木村所員より中間報告ならびに最終報告は必ず体育研究所雑誌に掲載しなくてはならないのか、外部の学術雑誌ではいけないのか、また、学外の協力者の名前を論文に出しても良いのかという質問があった。

所長より、外部の学術雑誌に掲載することは可能だが、その場合には研究のあらましが分かる最終報告書のようなものを体育研究所雑誌に掲載してほしい、外部の協力者については謝辞などに名前を載せる程度にとどめて欲しい旨の回答があった。回答に対し木村所員より、研究に外部の方が入って行くことも珍しくはないので今年1年くらいをかけて内規を作っていたかといと申し出があった。

これに対し所長より1~2年様子を見たといとの回答があった。

以上

## 第2回 体育研究所所員会議 議事録

日時：平成17年3月7日(月) 11:00~  
 場所：大会議室奥(深沢校舎・1号館・2F)  
 議長：伊藤 孝(所長)  
 書記：宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美  
 出席：伊藤 孝, 伊藤雅充, 荻 浩三, 釜崎太, 木村直人, 鈴川一宏, 田中信行, 津山 薫, 西山哲成, 野村一路, 三宅良輔, 依田充代, 綿貫慶徳  
 委任：具志堅幸司  
 欠席：中里浩一, 根本 研, 畠田好章, 林 忠男

### I. 報告事項

1. 平成16年度体育研究所課題研究中間報告書および研究活動報告書について  
 所長より、資料1に基づき平成16年度体育研究所課題研究中間報告書および研究活動報告書の提出について説明がなされ、期日までに提出いただきたい旨、報告がなされた。

2. 平成16年度体育研究所雑誌第30巻1号の進行状況について

所長より、資料2に基づき平成16年度体育研究所雑誌第30巻1号の進行状況について説明がなされ、投稿されていない研究代表者には催促をし、なるべく早く発刊したいとの報告がなされた。

3. 平成17年度体育研究所人事について

所長より、資料3に基づき説明がなされ、退職者および新採用者についての報告がなされた。

以上

## 第1回 体育研究所専任所員会議 議事録

日時：平成16年4月8日(木) 16:30~  
 場所：体育研究所所長室(旧男子第2寮・1F)  
 議長：伊藤 孝(所長)  
 出席者：伊藤 孝, 伊藤雅充, 荻 浩三, 鈴川一宏, 宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美

### I. 報告事項

1. 平成16年度体育研究所予算について  
 所長より、体育研究所予算について、平成16年度は1,900万円の予算配分があり、その内訳は、所内予算として500万円・研究費として1,400万円で進め、また、所内予算のうち、他の研究室に所属する期限付助手・教務補助員と同様に、期限付助手に20万円、教務補助員に10万円の研究費項目を加えるとの報告がなされた。

### II. 審議事項

1. 平成16年度体育研究所課題研究研究テーマおよび課題研究費について  
 所長より、平成16年度体育研究所研究テーマとしてI.日本における生涯スポーツ振興と展望(研究代表者:荻 浩三),II.競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究(研究代表者:伊藤雅充)III.運動と健康に関する研究(研究代表者:鈴川一宏)以上の柱を基本とし、課題研究費の内訳は、Iは400万円,II・IIIについては、各500万円として進めていくとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

## 2. 平成16年度体育研究所雑誌の発刊について

所長より、体育研究所雑誌の発刊について、年2回発刊していたが、今年度より和・洋雑誌それぞれ年1回の発刊としていきたいとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

## その他

1. 今後の予定としては、課題研究の共同研究者を公募するが、4月19日に配布し、締切日を4月28日とする。平成16年度第1回体育研究所委員会の開催を4月16日の17:30～とし、開催の案内は4月12日に配布し、6月14日の教授会において、兼任所員の報告をすることが確認された。

2. 体育研究所実験室の外線番号である03-5706-0942に迷惑電話が入り、どうにかならないかということで、体育研究所として、外線番号を1回線にしてはどうかと提案があった。管財課に問い合わせをし、対応することになった。

以上

## 第2回 体育研究所専任所員会議 議事録

日時 平成16年5月17日(月) 16:30～  
場所 体育研究所所長室(旧男子第2寮・1F)  
議長 伊藤 孝(所長)  
出席 伊藤 孝, 伊藤雅充, 荻 浩三, 鈴川一宏, 宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美

### I. 報告事項

1. 平成16年度体育研究所課題研究および体育研究所兼任所員について

所長より、第1回体育研究所専任会議において設定された各研究テーマについて公募をした結果、資料1の応募があり、応募者が兼任所員となると報告がなされた。

### II. 審議事項

1. 研究テーマI「日本における生涯スポーツ振興と展望」(研究代表者: 荻 浩三)について

荻所員より、①・②・④のテーマについては応募されたとおり、①「生涯スポーツ学の課題と展望」については綿貫先生、②「『総合型地域スポーツクラブ』『地方自治体における生涯スポーツ振興政策』の現状と課題」については野村・依田・釜崎各先生、④「スポーツ福祉学の可能性と限界」については田中先生を兼任所員とし、③「伝統スポーツ(伝統的遊び)の再考」については、荻所員と福井所員が担当することが提案された。

審議の結果、原案が承認された。

2. 研究テーマII「競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究」(研究代表者: 伊藤雅充)について

伊藤所員より、①スカウティングの方法について、具志堅・畠田各先生については他の研究テーマへ調整が行われる可能性があるとし、伊藤所員が両人に確認することとなった。①については根本先生に、②映像活用・動作分析に関する研究については西山・根本各先生に、④情報の整理・管理システムの構築と運用に関する研究については林先生を兼任所員とし、③トレーニングに関する研究については伊藤・宮本各所員が担当することが提案された。

審議の結果、原案が承認された。

3. 研究テーマIII「運動と健康に関する研究」(研究代表者: 鈴川一宏)について

鈴川所員より、①～③のテーマについては応募されたとおり、①学齢期における運動が健康および発育発達に及ぼす影響については津山先生に、②スポーツ選手のコンディショニングに関する研究については中里先生に、③生活習慣病予防のための運動の役割については三宅(良)先生を兼任所員とし、④運動が防衛体力に与える影響については、鈴川所員が担当することが説明された。また、③のテーマについて所長より木村先生に協力をお願いしたい旨、提案された。

審議の結果、原案が承認された。

#### 4. 平成16年度体育研究所課題研究研究計画調書について

所長より、各テーマの責任者には、研究調書を後ほど決定する締切り日までに提出していただく旨の提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

#### 5. 平成16年度体育研究所主催講演会について

所長より、今年度で開催される体育研究所の主催の講演会について、資料2に基づき演者は成田・入江・落合・渡邊各先生にお願いし、依頼する順番は採用年度順に成田先生、入江先生、落合先生、渡邊先生とすること、また第1回については6月29日(火)に行い、演者は成田先生にお願いすることが提案がなされた。

また、今年度の講演会は年間4回行うことが確認され、続いて所長より日程について、第1回目は6月29日(火)17時30分より、第2回目は7月27日(火)17時00分より、場所はいずれも大会議室において開催すると提案がなされ、第3回目以降の講演会の日程については次回体育研究所専任会議において審議されることが確認された。

審議の結果、原案が承認された。

#### その他

1. 所長より、運動部統括部長の監物先生より学長に要望があり、その内容は各運動部が競技力向上のための講習会開催時に体育研究所が予算面で協力して欲しいという旨、所長より報告がなされた。

以上

### 第3回 体育研究所専任所員会議 議事録

日時：平成16年6月14日(月)10:00～  
場所：体育研究所所長室(旧男子第2寮・1F)  
議長：伊藤 孝(所長)  
出席者：伊藤 孝、伊藤雅充、荻 浩三、鈴川一宏、宮本英美子、福井 元、永塚聖美

#### I. 審議事項

##### 1. 研究計画調書について

- 1) 研究テーマI「日本における生涯スポーツ振興と展望」について

荻所員より、資料に基づき荻・綿貫両所員の研究計画について説明された。荻所員の研究課題について、1年間で日本国内すべてか地域を限定して行うかについては、研究分担者である福井所員と今後検討し、研究を進め、野村・依田・釜崎各所員の研究計画調書については、本日、話し合いをし、確認するので、所長および荻所員に一任いただきたい旨、提案がされた。

審議の結果、承認された。

- 2) 研究テーマII「競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究」について

伊藤所員より、資料に基づき研究計画について説明された。研究課題を1つにし、研究をしていく旨、提案がされた。

審議の結果、承認された。

- 3) 研究テーマIII「運動と健康に関する研究」について

鈴川所員より、資料に基づき鈴川・木村・中里・三宅・津山各所員の研究計画について、説明された。三宅所員の研究計画調書について、デジタル長座体前屈計を購入し、研究するとなっているが、体育研究所で購入したものがあるので、それを使用し研究していただく説明をしたため、予算配分について変更される旨、報告がなされ後日確認するので、所長および鈴川所員に一任いただきたい旨、提案された。

審議の結果、承認された。

2. 平成16年度体育研究所主催学術講演会の開催について

- 1) 前期の学術講演会について

所長より、第1回学術講演会の演者は、教職教育I研究室所属の成田國英教授に依頼し演題は「少子社会は何をもたらすか～教育に及ぼす影響～」であると報告がなされ、第2回学術講演会については、平成16



年7月27日(火)に開催し、演者はスポーツ医学研究室所属の入江一憲教授に依頼する旨、提案がなされた。

審議の結果、承認された。

## 2) 後期の学術講演会について

所長より、後期に開催される第3・4回学術講演会について、平成16年10月19日(火)・同11月22日(月)に予定し、演者については、自然科学研究室所属の落合卓四郎教授および運動方法(テニス・ソフトテニス)研究室所属の渡邊功助教授に依頼する旨、提案がなされた。

審議の結果、承認された。

## 3. その他

### 1) 横浜市の子どもの体力向上実践地域に関する協力について

荻所員より、野村所員より横浜市の子どもの体力向上実践地域への協力を依頼されたので検討していただきたいとの提案がされた。

所長より、地域・社会貢献推進委員会等、別の機関より体育研究所に依頼があれば、兼任所員を含めた先生方にもご協力をいただき引き受けたいという回答がなされた。

審議の結果、承認された。

### 2) ダートトレーナー講習会について

伊藤所員より、平成15年度体育研究所予算で購入したダートトレーナー(映像分析ソフト)について、広報を兼ねて研究者を対象に講習を行う旨、報告がなされた。

以上

## 第4回 体育研究所専任所員会議 議事録

日時 平成16年12月2日(水) 18:30～  
場所 体育研究所所長室(旧男子第2寮・1F)  
議長 伊藤 孝(所長)  
出席 伊藤 孝, 伊藤雅充, 荻 浩三, 鈴川一宏, 宮本英美子, 永塚聖美  
欠席 福井 元

## I. 審議事項

### 1. 体育研究所雑誌第30巻1号の発刊について

所長より、定期的に発刊している体育研究所雑誌について今年度は、遅くても平成17年4月末日までには発刊し、掲載する論文について締切日は平成17年1月末日に設定する。掲載する論文については、資料に基づき、平成15年度課題研究を行い、論文を投稿していただいていない先生方、および平成16年度課題研究を行い、論文を投稿いただける先生方とする。平成16年度課題研究に関しては、中間報告書でも可とし、状況をみながら掲載していきたいとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

### 2. 体育研究所主催 学術講演会について

所長より、平成16年度体育研究所主催の学術講演会はすでに4回実施され、体育研究所雑誌の発刊日程等を考慮し、平成17年1月～3月に行っても、雑誌に掲載することが難しいので、今年度は4回で終了とし、平成14年度～平成16年度に新採用された助教、および平成17年度新採用の先生方を対象に来年度以降も学術講演会を開催していきたいとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

### 3. 平成17年度 体育研究所の人事について

伊藤所長より、平成17年度体育研究所は、所長・講師・兼任所員については、変更がなく、期限付助手、教務補助員および臨時職員の3名については、任期満了のため、入れ替わり、新採用となる。来年度は期限付助手2名とし、自然科学系1名、文化系1名とする。臨時職員に関しては、本部採用となるため、体育研究所から推薦することはできない。人選について専任の先生方にも協力いただき、決定していきたいとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

以上

## 第5回 体育研究所専任所員会議 議事録

日時 平成17年2月22日(月) 13:00～  
 場所 体育研究所所長室(旧男子第2寮・1F)  
 議長 伊藤 孝(所長)  
 出席 伊藤 孝, 伊藤雅充, 荻 浩三, 鈴川一  
 宏, 宮本英美子, 福井 元, 永塚聖美

### I. 報告事項

#### 1. 平成17年度 体育研究所 新採用人事について

所長より平成17年度体育研究所に新採用人事の報告があり、自然科学系の所員として、任期制助手・岩原文彦(現:国立スポーツ科学センター在職)、社会科学系の所員として期限付助手・紅林 仁(現:日本体育大学大学院在学)の採用が正式に教授会を経て決定したと報告がなされた。

### II. 審議事項

#### 1. 平成16年度体育研究所課題研究について

- 1) 所長より、平成16年度体育研究所課題研究の提出された報告書について説明がなされ、①日本における生涯スポーツ振興の課題と展望については、中間報告書5編が提出されていること、野村所員と釜崎所員の報告書が未提出であることが確認された。②競技スポーツにおける情報・戦略に関する研究については中間報告書1編が提出されていることが確認された。③運動と健康に関する研究については中間報告書5編が提出されていることが確認された。また、所長より中間報告書を体育研究所雑誌第30巻1号に掲載するため、2,000～4,000文字以内に縮小し再提出願う旨の提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

#### 2. 体育研究所雑誌第30巻1号について

- 1) 所長より、掲載予定の原稿の提出の有無が確認された。平成15年度課題研究の報

告書については、井川先生、伊藤(雅)所員、荻所員、鈴川所員、中里所員の報告書が未提出であること、大野所員の報告書が提出されていることが確認され、所長より未提出の報告書の締め切りを、平成17年3月4日とすると提案がなされた。また、平成16年度体育研究所主催の学術講演会の原稿の提出の有無の確認も行われ、落合先生、筒井先生(締め切りは2月25日)の原稿が提出されていないことが確認された。

審議の結果、原案が承認された。

- 2) 所長より、同雑誌に体育研究所専任所員会議、体育研究所所員会議、体育研究所委員会の議事録を掲載する旨の提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

- 3) 所長より、同雑誌に体育研究所専任所員および体育研究所兼任所員の本年度の業績一覧(著書・論文・講演・学会発表・社会的活動など)を掲載する旨の提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

#### 3. その他

- 1) 今後の予定として所長より第2回体育研究所所員会議を、平成17年3月7日11時より開催したいとの提案がなされた。

審議の結果、原案が承認された。

- 2) 永塚所員より、兼任所員へ体育研究所の課題研究の予算を用いて購入し、貸し出しをしている物品の所属を明確にするために、物品の借用書の提出をお願いしたいこと、円滑に業務を進めるために来年度の予算配分申請書にメールアドレスを記入する欄を付け加えたいとの提案がされた。

審議の結果、原案が承認された。

以上